

会報

# 国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

号外

2014年5月14日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局  
千葉市中央区要町2-8 DC会館内  
TEL 043-2222-7207  
nationwidemovement@yahoo.co.jp

# 解雇撤回10万筆署名を達成して 6・8を国鉄闘争の新たな出発点に

5月7日、国鉄闘争全国運動の呼びかけ人会議を開催しました。この号外は、呼びかけ人会議の議論をもとに参加者の発言を事務局の責任で編集したものです。また、4月19日に開催された尼崎闘争での関西生コン支部、港合同の発言の抜粋も掲載しました。6・8全国集会の成功に向けた討議のためにご活用下さい。

## 6・8を国鉄闘争の新たな出発点に

田中康宏（動労千葉委員長）



全体に蔓延した。ただその後、政府は国労に対して「大会で国鉄改革法を承認しろ」「JRに法的責任なしを機関決定しろ」と何度も迫った。政府の側も通ずる自信がなかった。

1047名解雇撤回を闘う国鉄闘争全国運動の力を結集して到達した地平は大きい。一昨年の東京地裁6・29判決、昨年の東京高裁9・25判決で不採用基準そのものが不当労働行為だと認めさせるところまで来た。国鉄改革法を覆すことに手がかかっている。

しかし、到達地平が大きければ大きいほど中途半端にしたら労働者の信頼を失うことになりかねない。解雇撤回へ最後まで全力を尽くしたい。

どんな判決になったとしても国鉄分割・民営化の過程とそれ以降に起きたことを曖昧にしてはいけない。本当に社会的な影響力をもった運動として全国運動や動労千葉の闘いがもう一歩前に行けるかどうか。6・8集会はその一つ分岐点になる。

国鉄改革法に立ちむかうことはできたと感じている。当時は立ちむかえないという雰囲気があった。JR東日本は、本来には管理部門以外もたないところまで外

## 外注化阻止の闘い

注化を進めようとしています。動労千葉が先頭に立って車両の検査・修繕部門で外注化と闘っていることが全体に歯止めをかけている。

他の部門では外注化が決定的にエスカレートしている。東京では駅業務の本格的な外注化のために新しい下請会社をつくった。発足後1年で、生涯で3回しか定期昇給がない就業規則が

## 国鉄改革法23条そのものが違憲

葉山岳夫（動労千葉弁護団長）



上告理由書、上告受理申立書を1月27日に提出しました。相手の方は昨年11月に提出してましたが、どんなでもない内容です。6月末日までに反論を提出する準備をしています。

2審の難波判決は、不当労働行為があることと不採用となった場合はすべて清算事業団に行くと釘を刺した。「それが国鉄改革法に基づく基本的な立場だ。国鉄が名簿を作り、設立委員会が採用し、両社はまったく無関係」と。その国鉄改革法23条そのものが違憲ではないのか。そのことをこちらの上告理由書で全面的に展開した。

提案された。まさに9割非正規化、安倍政権のモデルをJRが提唱している。



昨年6・9全国集会（文京シビックホール）

しかし事態は変わりつつある。それを象徴的に示したのが、去年12月の韓国鉄道労組の23日間のストライキ。世論の7割を民営化反対に組織した驚くべき事件になった。20数年間、そうした政策もたらしたものを誰も全部見ていた。そこに労働運動が力をもって登場したときに世論全体が

反対になった。セウオル号沈没事故で起きたことはJR北海道とは寸分違わない。明らかに支配の崩壊が始まっている。だからこそ、なおさらここで国鉄闘争の旗を絶対に降ろしちゃいけない。5月2日の動労千葉のストライキは、下請け労働者を犠牲にするなどということを真正面から掲げました。労働者が団結すれば新自由主義攻撃は打ち砕けると示し続けた。解雇撤回闘争と二つの柱で、国鉄分割・民営化反対闘争としてこれからも書いていきたい。

## 新たな運動体に

形の上では和解してしまった闘争団の仲間たちも、まだ数は少ないけれどもこの運動にかかわり始めている。その背後にはもっと多くの仲間がいる。さらに鈴子の勝利など、新しい展望も生まれてきている。動き始めている。これをつかみたい。10万人署名運動を高裁、最高裁と継続して行う中、各地域や労組で本当に我がことのように進める仲間が生まれています。それを本当につなげて一つの力にして進めば可能性はある。

## JR主敵で闘いの軸つくる

鈴木達夫（弁護士）



6・29と9・25判決、法大暴処法裁判、鈴子裁判でおしこんだ。それで最高裁長官をすげ替え、寺田体制になった。寺田は裁判官生活の半分以上は法務

官僚で、裁判の現場は知らない。安倍人事です。JR体制は崩壊期に入った。国鉄分割・民営化をやった葛西らが人格的にも資本としても日本の屋台骨になっている。全国的にこのJRを主敵にし続けることだ。

JRで働く人たちの闘うコアを形成する。安全問題はもっと広げられる。JRを主敵にすることで一切の労働問題の集約的な軸として作れる。「労働者の魂ここにあり」というでかい運動を作っていく。青年労働者も獲得できるんじゃないか。

### 体制変革を意識的に追求する時

鎌倉孝夫（経済学者・埼玉大学名誉教授）



JRの安全や経営破綻の情勢は、具体的に表われた新自由主義の破綻です。5月2日の労働千葉のCTSストライキは非常に重要ではないか。6・8集会を新たな闘争の出発点にする。非常に重要な闘いになると思

ました。

現代の情勢の特徴点は、新自由主義の崩壊が日本だけではなく世界的に表われている。外注化などで徹底的に労働分野の規制緩和が行われた。人間が人間として働いて生きる場

資本の自由が浸透したら崩壊する。だから規制をかけていた。その規制を「岩盤規制」として徹底的になくそうするところまで来た。

株価を高くすることで景気をよくする「擬制資本」は、資本の行き着く姿。資本の利潤追求を徹底して拡大すれば、労働者を本当に虫けらのように使う体制を作らなくてはならない。

労働者を人間として認めない、モノ・部品にする。事態はそこまで来ていて、それが具体的にさまざまな点で表われている。本格的な労働運動を確立しなければならぬ重要な時。

この体制の中では労働者は人間として生きられなくなっている。この認識が重要。体制の限界が来ている。体制変革を目的意識的に追求していく次元になった。

### 署名運動の教訓を全体のものに

伊藤 晃（日本近代史研究者）



私たちの運動は解雇撤回・JR復帰を基調にした問題と全社会的に起こっている社会的な崩壊状況とを結びつけようという初めからしてきた。そのことで署名

を取る中でも苦勞されたと思う。それが私たちの運動の値打ちかもしれない。

JR体制が崩壊し、次から次へ問題が起こっている。いろいろな問題の全社会的なつながりが大変はつきりしてくる時代が来ている。

署名を取るとき、相手と話し込んでいこうと思う。一生懸命話して、つながりをみんなで

共有し、理解を共有していく。それをどう推し進めるかが非常に重要だと思います。

議論の中で、相手が自発的にオルガナイザーになる。そういう体制ができれば爆発的に広がるのではないかと。そうならば、どんな判決が出ようとも自信を持って運動できるだろうと思います。

全国で起こっている色々な試み、活動を深く研究・分析して、全体のものにしていくことが大事です。

### 非弁護士制度との激闘

高山俊吉（憲法と人権の日弁連をめざす会代表）

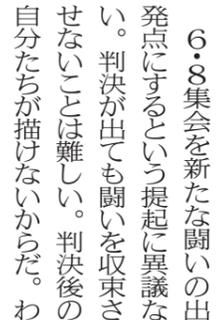


一番問題になったのは「法曹有資格者制度」、非弁護士制度です。法曹の資格を持つが弁護士になれない人たち。まさに非正規職の議論と重なります。

非弁護士制度で再攻撃に出ている。新しい仲間がどんどん増えていきます。闘いの一番のステージはそういう凄まじい激闘の中にあると実感しています。

### 判決後も影響力ある運動を

入江史郎（ス労自主労働組合委員長）



6・8集会を新たな闘いの出発点にするという提起に異議はない。判決が出て闘いを収束させないことは難しい。判決後の自分たちが描けないからだ。わ

れわれも問われている。これに挑戦する決意だと思つ。ともにやっつけていこうと改めて思つた。資本の大競争の中で労働者が

出づらな状況で扱われ存在が認められない。日本・世界の資本主義で起こっている。われわれの運動の主体は労働者。国鉄闘争にはかけるだけの価値があると思う。私も6・8集会を新たな闘いの出発点にしたい。

### 闘いを広げる新たな声明を

芹澤壽良（高知短期大学名誉教授）



今年に入ってから皆さんの会議に参加し、皆さんの闘いの重要性、貴重さを実感してきました。今日も皆さんのそれぞれ

の地域や地方で全国的に闘っておられる状況を具体的にお聞きする中で、今後の闘いに可能な限り協力していきたいと思つています。

とりわけ職場・地域でいろいろな困難の中で取り組んでおられる。その報告の中にいろいろな変化が進んでいることを実感できました。その中で、6月8日の

大集会を成功させよう、とりわけ新たな決意表明を提起しようということには大賛成です。

やはり20数年にわたつて闘い続けてきた事実をもっともつと広げていくことです。そういう状況を理解していただけるのは、実際いろいろな攻撃と闘っている人の中に表われていると実感できました。そこを中心

に、職場を中心とした地域の状況を変えることが大事だと思ひます。ぜひ、心を動かす立派な声明を作ってください。

### JRの犯罪を暴いている

中村吉政（港合同委員長）



尼崎事故から何年もたつのに事故が頻発している。鉄道事業

者としてのモラルが問われることが頻発している。JRの犯罪的行為だ。

しかし、皆さんの闘いでこれらが浮き彫りになった。労組を分断し、国鉄がJRに移行した。JRは労働者を労働者と思わず、利益だけを求めている。そ

れが分割・民営化。間違いだ。大阪では橋下市長が大変な権

利侵害を行っている。地下鉄・バスを民営化させると思っているが、労働者の闘いで当初の構想は挫折した。安倍政権は戦後わ

れわれが守ってきた憲法を力づくで奪い去ろうとしている。これは戦争への一歩だ。港合同リーダーのスローガンは解釈改憲・貧困にノー、戦争をする国づくり許すな。戦争をやめさせ

### 闘争団員は納得していない

花輪不二男（世田谷地区労働組合協議会顧問）



れる労働者の現状はさらにひどくなっている。

しかし、僕も北海道の闘争団の人たちとつきあつてきました。それで、国鉄闘争全国運動の呼びかけに名前を連ねた

に、批判があるんじゃないかという話をしました。彼らは、花輪君がやっていることについて批判する北海道の闘争団員はほとんどいないはずだといつてくれました。あの妥結、収束に

る責任が私たちにあります。日々の職場での奮闘がいまの

### 現場で背景資本とも闘う

武谷新吾（関西生コン支部書記次長）



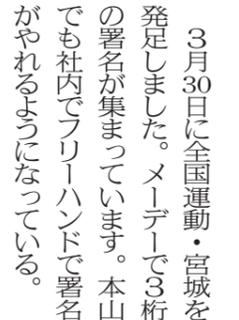
春闘は2年連続1万円の賃上げで妥結したが、ゼネコンとセメントメーカーから原資を取る闘いを続けている。そのためには現場での闘いがなければなら

状態を守っている。それを誇りにし自覚し、ともに頑張りたい。

4月1日から4日間、独占資本のセメントメーカーの出荷基地をストで止めた。それ以降も大衆行動、ストを続けている。鈴コンの仲間が法廷闘争で勝利し、現在、現場で原職復帰に向けて闘っている。現場の闘いがないと、反動法案による弾圧もどんどん行われる。春闘は決着したが、背景資本との闘いは終わっていない。皆さんとともに闘いたい。

### 到達している地平は大きい

長谷武志（全金本山労働組合委員長）



新潟の経験を参考に自治労や教組の本部にも話しに行きました。教組からは各支部におろすという返事をもらいました。これから各単組を本格的にまわつていきたいと思います。

ある単組の委員長と「批判はあつてもいいが、他の方法があるなら教えて」と議論した。われわれが到達している地平はものすごく大きいと感じた。